

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
当該学年で習う漢字の大体が読め、前の学年の配当漢字を、文や文章の中で使うことができる。また、句読点、改行、文と文をつなぐ言葉を適切に使うことができる。	【書くこと】書きたいことや、文章の構成が明確になっているかに気を付けて、文や文章を整えたり、文章の書き表し方を工夫したりすることができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> マス目の用紙に文章を書く際に、句読点、改行を適切に行う力に差が見られる。ア 	<ul style="list-style-type: none"> マス目の用紙の書き方(姓と名の間は1マス空ける、句読点の位置等)の指導を繰り返す。 書いた文章を読み直し、推敲する時間をとる。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> マス目の用紙の書き方の指導を繰り返し行うことを通して、正しい使い方をできる児童が増えた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 使用できる語彙の量が少ないため、表現がいつも同じパターンになってしまいがちである。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に読み聞かせを取り入れて、多くの表現に出合わせたり、国語辞典を使用して、新しい語彙の獲得につなげたりしていく。 新しく学んだ表現を使用できるように、短文づくりをする。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせの日常化や、国語辞典の意図的な使用により、様々な言葉に親しむことができ、自分の思いを言葉で表現できるようになった。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 文の構成を意識し、文章を書くことに課題が見られる。その他 登場人物の行動や様子を、叙述を基にして捉えることに課題が見られる。その他 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ」「中」「終わり」など、文の組み立てメモを使用し、全体の構成を考えて書くようにさせる。 どの叙述から考えたのか、教科書にサイドラインを引かせ、叙述を基に読み取ることを意識させる。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した文の組み立てメモを使用した結果、全体の構成について見通しをもって取り組めるようになった。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の生活ですすんで漢字を使おうとすることに課題が見られる。ア 文の構成を意識し、書きたいことを具体的に表したり、豊富な語彙で表現したりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を用いた熟語について、辞書で意味調べをする時間を確保し、語彙を増やしていく。その上でそれらを日記で使うなど活用した児童を紹介し、使い方の共有を図る。 書く機会を多く確保し、身に付けた言葉を使えるようにしていく。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を使ったビンゴゲームを日常に取り入れることで、習熟度が上がった。 「初め」「中」「終わり」の構成について理解を深め、書く活動にも生かすことができた。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに対し、「何を書いてよいか」という表現の部分と、「どうやって組み立てればよいか」という構成の部分で苦手意識をもっている様子が見られ、課題となっている。ア、イ 	<ul style="list-style-type: none"> 朝のクラスタイムを活用し、ディベートなどを取り入れながら、日常生活の中で表現する機会を増やしていく。 説明文を学習する際には、文の構成の部分丁寧に扱い、文の構成や接続詩の使い方などを確認していく。 	通年 通年	<ul style="list-style-type: none"> ディベートや意見文を書く活動を増やし、自分の意見を表現する機会を設けたことで、書くことに対して苦手意識をもつ児童が減った。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中ですすんで漢字を使おうとすることに課題が見られる。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに、3問ずつ漢字クイズをするなど、日常的に既習漢字に触れるようにし、復 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に既習漢字に触れると共に1～6年生までの漢字を復習し

	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに対して苦手意識があり、考えたことを文章で適切に表現する力に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 習の時間を積み重ねていく。 初読の感想や学習感想、作文の時間を大切に、自分の考えを形成する時間を確保した上で、文章に書き表す活動を充実させる。 	通年	<p>たことで、自分の到達度を理解し自ら復習することにつなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書くことへの抵抗が減り、表現豊かに書こうとする児童が増えた。
--	---	--	----	---

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを活用して、自分の考えを直接カードに書いたり、ワークシートの写真を撮ったりして、提出することで、一度に全員の考えを共有する。また、シンキングツールなどを使い、複数の児童の考えを比較しながら提示し、意図的な指名を工夫しながら、共通点・相違点について考えさせる。 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元全体や1単位時間の学習の流れを示し、見通しをもたせる。単元の終わりや、授業の終わりに学習感想を書き、クラス全員で共有する。

令和5年度 多摩市立永山小学校 授業改善推進プラン 教科名

算数

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<p>ア 知識及び技能</p> <p>数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。</p>	<p>イ 思考力、判断力、表現力等</p> <p>日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。</p>

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読んで立式したり、立式の根拠を説明したりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 加法、減法がそれぞれどんな場面で適用されるのか、言葉や具体的な操作をもとに理解を深めていく。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 算数ブロックなどの具体的な操作や、図を用いて考えることを繰り返し指導したことで、正しく立式できるようになった。しかし、立式の根拠を説明することは難しいので、今度も立式の際に積極的に図を活用していく。

第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を用いて、新たな問題を解決しようとする技能、表現に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 説明するときに使用したい算数の言葉や、式など、説明の方法について学ぶ時間を確保したり、学んだ表現を意図的に使わせたりする。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 手順を表す言葉や、算数用語を指導してきたことで、問題解決の際に、順序立てて説明できるようになってきた。今後も様々な問題で、説明に慣れさせていく必要がある。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の手順を表現する(記述・発表)ことに課題がある。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言葉や式、図などを用いて表現する活動を多く取り入れる。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 問題文をよく読み、式や図を使って考えを記述することができたが、言葉で表現することに課題が残っているため、引き続き表現する活動を工夫して行っていく必要がある。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決ができて、根拠を説明する(記述・発表)ことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 考え方を共有し、様々な考え方を学び合うようにする。その際に図や式を用いて説明する方法を意識付ける。 	少人数指導時 通年	<ul style="list-style-type: none"> 立式や筆算の方法について、「なぜそうなるのか」を考えながら学習に取り組むことはできた。言葉で説明し、考えたことを数や図で表現することについては、今後も意識的に学習に取り入れていく必要がある。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算や小数の計算、倍数など、既習事項を活用した計算問題を解くことに課題が見られる。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 補充問題を使用しながら、復習をする時間の確保をする。 数量の関係を図や式を用いて表す活動を充実させ、数量に対する思考力・判断力・表現力を育む。 	少人数指導時 通年	<ul style="list-style-type: none"> 復習をすることで、学習の定着を図ることはできたが、4年生までの既習事項の定着に課題が残っているため、引き続き復習をしていく必要がある。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 数量を割合で表すことや、数量の関係を図や式に表すことにやや課題がある。ア 簡潔・明瞭・的確な記述発表に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 二本数直線などを用い、数量の関係を捉えやすいような指導を行う。 数量の関係を図や式を用いて表す活動を充実させ、数量に対する思考力・判断力・表現力を育む。 	少人数指導時 通年	<ul style="list-style-type: none"> 数量を割合で表すことや、数量の関係を図や式に表すことはできるようになったが、既習事項同士のつながりを意識して、すすんで解くことに課題は残る。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

<ul style="list-style-type: none"> ・ミライ・シードを使った復習・反復を行い、既習内容の定着を図る。 ・手元で図形を操作できるようにし、何度も確認できるようにする。 ・数直線や具体物等をタブレット上で示し、具体的なイメージで学習内容を確認する。 ・ノートを写真に撮り、ロイロノートに提出することで、児童同士が互いの考え方を共有したり、比較したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「問題」「類題」「まとめ」「学習感想」の流れを全校で統一することで、6年間一貫した（永山スタイル）学習の流れを構築する。 ・授業の始めに必ず「めあて」を書き、本時の見通しをもたせる指導を継続して行っていく。 ・授業の終わりに「学習感想」を書くことで、その日の課題に対する学びの深まりを実感することができるようにする。
--	--

令和5年度 多摩市立永山小学校 授業改善推進プラン 教科名

社会

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
【観察・資料活用の技能】資料から内容を読み取る時に必要な情報を収集することができる。	【社会的な思考力・判断力・表現力】社会的な事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的な事象の意味を考え、適切に判断することができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・知識と実体験を結びつけることが苦手。ア ・資料を読み取る力に課題が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な体験活動を可能な範囲で取り入れ、社会的な事象とつなげて考えさせる。 ・資料を精選し、読み取る視点を明確にさせる 	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験や実際に体験したことと関連させてことで理解が深められた。 ・グラフのような資料の読み取りはできているが、文章などの資料を読み取ることに課題がある。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・事象について多角的に見ることに課題がある。ア ・資料から問題解決につながる情報を、読み取ることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地図で見た際のひろがり」「時代のうつりかわり」「人のがんばり・つながり」などをキーワードに地理的關係や時間軸、人々の努力などに着目させて学習を展開する。 ・資料の何に注目すべきか、視点を明確にした上で事実を読み取り、分かったこと・考えたことをまとめる活動に取り組ませる。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・「地図で見た際のひろがり」「時代のうつりかわり」「人のがんばり・つながり」などについて、地図やその他の資料を使って考え、意見をまとめる経験を積むことができた。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を関連させて考えたり、既習事項を自分自身の生活と結び付けて考えたりすることに課題がある。ア、イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料を関連させて考える学習を増やすことで、資料を関連させて考える機会を増やす。 ・グラフを読み取る学習をする際に、2つ以上のグラフの乗法を関連付けて考えられるよう、読み取るポイントを明確にする。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り、課題解決をすることができるようになってきたが、資料を多角的に見て考えることに対して課題が残る。

第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な出来事や政治経済についての認識や資料の読み取りに課題がある。イ 得た知識を用いて、社会的事象の相互の関連を考える力にやや課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表を読み取る学習や資料を活用する学習を適宜取り入れ、必要な情報を読み取る力を高める。 既習事項を授業内容とつなげ、繰り返し社会的事象に関わる語句や内容を確認すると共に、知識を関連付けながら考える時間を確保する。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取り、自分の言葉でまとめる力は高まったが、歴史のつながりや因果関係を意識しながら理解することには課題が残る。
			通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
3年 タブレット端末を活用し、写真や動画を基に分かったことをまとめていく。 4年 タブレット端末を活用し、収集した情報を整理し、まとめていく。 5年 タブレット端末を活用し、読み取った情報を分類・整理して話し合う。 6年 調べたことを基に、タブレット端末を活用して、説明を行う。	3・4年 本時の学習の振り返りをノートに書き、学んだことを振り返る時間を設定する。 5・6年 本時の学習の振り返りをノートに書かせ、学習問題に対してどこまで迫っているのか確かめ次時の学習課題を考える時間を設定する。

令和5年度 多摩市立永山小学校 授業改善推進プラン 教科名

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
目的に応じて実験器具を扱って調べ、実験の過程や結果を適切に記録することができる。	自然事象についての諸々の因果関係を捉え、考えることができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果や観察結果から、分かったことをまとめることに課題がある。ア 動植物の観察に対する意欲は高いが、観察したことを言語化することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた結果を分かりやすく整理して書かせ、結果を全体で共有しながらまとめさせる。 細部まで観察できるようにタブレットで撮影する。観察結果をロイロノートで共有することで多く様々な表現方法を知ることができるようにする。 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 考えを共有することで、多様な考えをもてるようになった。 撮影することで、繰り返したり、拡大したりすることで、細部まで正確に観察できた。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 結果の記録や、適切な方法で丁寧に実験を行うことに課題がある。ア 実験結果についてまとめることはできるが、 	<ul style="list-style-type: none"> 実験するにあたって、一つ一つの方法にはどのような意味、留意点があるかを確認する。 「実験結果から分かる事実は何か」「実験結果 	通年	<ul style="list-style-type: none"> 実験の仕方を確認しながら、丁寧に実験を行う姿勢が身に付いた。また、実験器具の扱いに対しても、

	考察について自分の言葉で表現することに課題がある。イ	から、何が言えるか」の2点について考察を記述する時間を確保していく。		安全に正しく扱えるようになった。 ・「実験から言えること」などの考察を、自分の言葉で記述するだけでなく、疑問や調べたい事を書き加える児童が増えた。
第5学年	・自然事象について理解しているが、それが学習と結びついておらず、結果、問題に対して誤答する様子が見られる。イ	・学習のまとめの際に実生活と結びつけて考えられるよう、計画的に授業を行い、振り返りをする時間の確保をしていく。	通年	・実生活と結び付けて考え、学習感想にまとめることができるようになってきた。
第6学年	・事柄や現象は理解しているが、既存の知識から仮説を立てたり、原因の説明をしたりすることがやや苦手である。ア ・観察や実験について、見通しを立てたり、器具を適切に扱ったりすることにやや課題がある。イ	・問題→予想→方法→結果→考察という授業の流れを確立し定着させる。また、その中で、理科の用語や既習事項を用いて考えを表現できるよう指導していく。 ・観察や実験の手順を丁寧に確認しながら学習を進める。	通年 通年	・予想や考察では、既習事項や生活経験をもとに考えることができた。 ・自分たちで考えて実験器具を用意したり、正しい扱い方を互いに確認したりしながら実験することができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<ul style="list-style-type: none"> ・細部まで観察できるようにタブレットで撮影し、観察したことを共有する。 ・予想や考察などをロイロノートに提出し、互いの考えを共有したり、自分の考えの参考にしたりする。 ・タブレット端末で結果を記録し、いつでも見返すことができるようにする。 	<p>3・4年 考察からのふり返りをノートに書き、新たなる疑問や課題についての思いを一人一人がもてるようにする。</p> <p>5・6年 互いに考察の内容を共有し、物事に対する視野を広げていく。</p>